

2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年 9月 30日
- 事業名 : 社会的孤立解消のための事業（重症児、医ケア児の家族及び本人の社会的孤立解消のために）
- 資金分配団体 : 測定非営利活動法人宮崎文化本舗
- 実行団体 : 認定特定非営利活動法人ホームホスピス宮崎

① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
当事者の人数や悩みや要望を明確にする。	アンケート、カフェでの相談数	まずは HALE たちばなの利用者・関係者の全員の意見や要望を把握する。	2022/6/30	カフェでの相談会はコロナの影響などもあり、予定の回数、人数に達していない。	3
社会活動に参加する当事者が増える	開催する教室（オンライン含む）やサークル等への参加数	宮崎市内の当事者の 1/4 程度（20 人程度）が何らかの形で参加できる。	2023/3/31	サークル活動は毎月開催しているが、予定の参加人数に達していない。	2
カフェを利用した就労の機会ができる。	カフェの手伝い人数	週 2 日以上、2 人以上の就労の機会を作る。	2024/3/31	カフェの稼働状況によるが、就労の機会を作ることができている。	2
当事者の社会活動のためのファンドレイジング計画がで	ファンドレイジング計画の作成	作品販売など資金調達の実績ができる。	2023/3/31	カフェの一角で作品販売を始めている。	2

き、実際に当事者が資金調達できる。					
SOS ネットワークの枠組みができる	ネットワークの構築状況 (ネットワーク図など)	ネットワークの枠組みが構築される。 宮崎市内の当事者の登録が始まる。	2023/3/31	宮崎県内の家族会との定期的な意見交換会を2022年8月から月に1回開始した。	2
先進的な取り組みとの相互連携の仕組みができる	相互連携の相手先	主要な先進事例3カ所以上の情報ネットワーク構築及び人材交流の実施。	2024/3/31	栃木県、福井県、東京都などの先進的な団体と連絡を取り始めている。	2
ノウハウの蓄積とその共有により実施体制が確立する	運用マニュアルの整備	持続化に向けた事業実施体制及び評価体制が確立する。	2024/3/31	試行的に行っている活動が定着するに伴って、そのノウハウ、マニュアルなどを資料化していく予定である。	2

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input type="checkbox"/> 変更なし <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
当事者との意見交換のために、オンラインミーティングの仕組みを利用した。想定よりも、オンラインミーティングの利用に抵抗がなく、定期的な（月に1回の）意見交換会を開催することができている。

③ 広報（※任意）

- 1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）
MRT 宮崎放送ラジオ出演（おやこ応援ラジオ 2022年8月7日）
- 2.広報制作物等
相談カフェチラシ、ヨガ教室チラシ、ママランチ会チラシ、ホームページ
- 3.報告書等
法人ニュースレター

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／ 外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部		黒岩雄二	ホームホスピス宮崎 理事
内部		堤 育子	ホームホスピス宮崎 HALE 施設長
内部		小川博司	ホームホスピス宮崎 職員
内部		今村裕之	ホームホスピス宮崎 職員

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況（アウトカムで捉える変化の主体→短期アウトカムと置き換えてください）

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
相談カフェが機能し、当事者の悩み（＝課題）がより明らかになり、解決の一助となれる体制が構築される。また、事前のアンケート（またはヒアリング）により、今まで表面化	相談カフェの開催頻度 相談者の参加人数 アンケートの回答数 アンケートの内容（満足度の確認）	相談者の参加人数は、毎週5人。 相談カフェの開催頻度は、週に1回以上。 アンケート回答の目標数は20件以上。	2022/6/30	相談カフェは、会場となるカフェの運営開始が遅れたことから、6月からの活動となったが、コロナの影響もあり、9月までに5回の開催に留まった。相談対応者は薬剤師にお願いしたが、薬局は医療・福祉分野に幅広いネットワークがあるので、相談内容も幅広く対応できることが分かった。また、当初は、カフェ利用者の中から自由に相談に来てもらうことを基本にしながら、広報を見た人から予約を受ける形を考えてそのように対応したが、まず、当事者が、やはりなかなかカフェまで足を運べない状況であることが改めて分かった。そのため利用者は、当初、同じ建物の

<p>しにくかった当事者の声がある程度集約される。</p>				<p>サービス利用者またはスタッフに留まった。 広報としては、HP、フェイスブック、チラシを作成し、チラシは社協や薬剤師のネットワークでも配布していただいたが、反応はほとんどなかった。 関係者ディスカッションにより、当事者などの感想からも相談カフェの意義はあるので、オンライン対応ができないか検討することとし、相談対応者ともその方法を検討している。</p>
<p>(上欄のアウトカムの発展形として) 相談カフェが定着し、一定数の参加者が安定的に利用するようになる。また、そこで形成された交流グループによる当事者同士のネットワークが作られる。</p>	<p>交流グループの形成 相談カフェの参加者数(安定的な参加の指標を登録者数とする)</p>	<p>交流グループによる相互支援活動が、施設外でも行われるようになり、地域での居場所づくりや交流に発展する。</p>	<p>2024/3/31</p>	<p>上記に関連して、相談カフェによる交流グループの形成はまだできていない。 相談カフェの利用者が限定的であったのは、コロナの影響もあるが、当事者が子どものケアなどで足を運ぶことがなかなか難しく、まずは、同一建物のサービス利用者を大層に想定していたが、送迎サービスを利用する人がほとんどであるため、そのことから利用が限定された。 そのため、相談カフェや社会参加につながる取り組みとして、「ママランチ会」を企画し、実施した(7/7)これは、当事者に気軽に参加してもらってカフェでランチをしながら、悩みなどをピアカウンセリングの形で解消していく取り組みである。子どもがまだ小さい母親が、大きな子どもを持つ母親に気軽に子育て相談をしたり、同席している看護師などに質問したりすることで、悩み解消につながっている。</p>
<p>当事者による各種教室やサークル活</p>	<p>参加者数</p>	<p>宮崎市内の当事者の1/4程度(20人程</p>	<p>2023/3/31</p>	<p>研修ルームを使った体験教室として、ヨガ教室の定期的な開催(毎月第4金曜日)を始めた。しかし、現状では、</p>

<p>動への参加が増え、作品販売などによる社会活動にも幅が広がり、孤立化を防ぐ社会参加の糸口が形成される。</p>		<p>度)が何らかの形で参加する。</p>		<p>相談カフェと同様の理由で利用者が限定的である。新たに始めた県内の家族会ミーティングによる意見交換で、当事者からオンラインセミナーなどの要望も出てきたため、現在、その企画を検討している。</p>
<p>クラフト作品作りなどのサークル活動やカフェでの手伝いを通して、家族(特に母親)の就労支援の仕組みが見えてくる。</p>	<p>参加者数とサークル数 カフェの手伝い人数</p>	<p>サークル活動やカフェの手伝いから、社会活動参加の手段や方法が明らかとなり、当事者の就労につながる支援の形が確立される。</p>	<p>2024/3/31</p>	<p>クラフト教室は、コロナ禍でもあり、まだ実現できていないが、自宅で製作したクラフト作品をカフェ内で展示販売する取り組みを始めている。また、建物内の日中一時支援サービスを利用する当事者の親(母親)の就労支援として、カフェでの手伝いや、施設でのパート雇用を実施している。今後、オンラインによる資格取得支援なども視野に入れている。</p>
<p>当事者と相互支援活動グループ及び必要な専門家によるSOSネットワーク(育児、医療などについての相談、情報ネットワーク)が機能するようになる。</p>	<p>SOS ネットワークの参加者数 SOS ネットワークの利用頻度</p>	<p>SOS ネットワークが機能し始める。</p>	<p>2023/3/31</p>	<p>まず、当事者の意見を広く取り入れることを目的にして、「県内医療的ケア児家族会ネットワーク(仮称)」を立ち上げ、8月と9月に第一回(8/20)第二回(9/17)のオンラインミーティングを開催した。第一回には3団体とスタッフで10名、第二回には、4団体と支援者(訪問看護ステーション)2者が参加し、14名の参加となった。この結果、当事者の悩みやネットワークに期待することなどを具体的に聞くことができた。また、相談カフェを組み合わせることで、遠隔からの個人的な相談も可能な仕組みが見えてきた。 また、「県内医療的ケア児家族会ネットワーク(仮称)」で</p>

				は、その場に支援者も加わることで、個々の家族会では発進できなかった情報や知ることができなかった情報など広く知ることができる仕組みに発展することが期待される。また、この中で出された意見を行政機関につなげることで、制度の拡張（施設開設の容易化など）などにつなげていくことも期待できる。
（上欄のアウトカムの発展形として）全国的な取り組みとの連携等により、地域のSOSネットワークが発展し、当事者の孤立を予防する県全域の支援ネットワークが構築される。	全国の取り組みとの連携数 支援ネットワークの参加者数	宮崎県内の当事者の半数以上が参加し、孤立を防ぐ予防システムとして機能し始める。	2024/3/31	2022年3月に全国の家族会（i-Line）が発足し、「県内医療的ケア児家族会ネットワーク（仮称）」のメンバーも加盟している。また、先進的な取り組みを実施している福井県の「オレンジキッズケアラボ」や栃木県の「うりずん」、また東京都の「フローレンス」などとスタッフ研修などの交流を始めており、今後の支援ネットワーク構築にも活かしていく予定である。



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
アウトプットの進捗状況から最終的に達成したい目標や短期・中間的なアウトカムは達成される見通しがあるか。	やや見通しが立っている。	取り組みによっては、阻害要因もあり、目標に達成しない可能性もあるが、方向性を見直しを行い、最終的なアウトカム達成を目指したい。



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</p> <p>と自己評価する</p>	<p>相談カフェや体験教室（サークル活動）など、取り組みによっては、阻害要因もあり、目標に達成しない可能性もあるが、SOS ネットワークの構築については、当事者の意見を取り入れる取り組みとして「県内医療的ケア児家族会ネットワーク（仮称）」を立ち上げた。目標値に達しない取り組みについては、阻害要因の分析を行って方向性を見直しを行い、最終的なアウトカム達成を目指す予定である。</p>

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	活動（相談カフェ）は計画どおりに実施されているか。	あまり計画通りではない。	目標値には、程遠い状況であった。相談カフェの利用者が限定的であったのは、コロナの影響もあるが、当事者が子どものケアなどで足を運ぶことがなかなか難しく、まずは、同一建物のサービス利用者を大層に想定していたが、送迎サービスを利用する人がほとんどであるため、そのことから利用が限定された。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	各アウトプット発生に影響を与えた阻害・貢献要因は何か。 事業を通して新たなアイデアが生まれたか。	阻害要因は、当事者の特性、コロナの影響など。貢献要因は、オンラインの活用。 新たなアイデアが生まれている。	研修ルームを使った体験教室では、相談カフェと同様の理由で利用者が限定的であった。クラフト作品販売では、自宅で制作した作品をカフェで販売する仕組みが、ホームページでの紹介なども充実させたことで、少しずつ定着してきた。 また、当事者の中から、サービス利用者からスタッフとして、日中一時支援事業やカフェでのパート就労に結びついたケースがある。相談カフェや社会参加につながる取り組みとして、「ママランチ会」を企画し、実施した。これは、当事者に気軽に参加してもらってカフェでランチをしながら、悩みなどをピアカウンセリングの形で解消していく取り組みである。子どもがまだ小さい母親が、大きな子どもを持つ母親に気軽に子育て相談をしたり、同席している看護師などに質問したりすることで、悩み解消につながっている。 また、「県内医療的ケア児家族会ネットワーク（仮称）」では、その場に支援者も加わることで、個々の家族会では発進できなかった情報や知ることができなかった情報など広く知ることができる仕組みに発展することが期待される。また、この中で出された意見を行政機関につなげることで、制度の拡張（施設開設の容易化など）など

			につなげていくことも期待できる。
組織基盤強化・ 環境整備	新たに構築された人や団体との協力・連携関係はあるか。	新たに構築された人や団体との協力・連携関係が生まれてきた。	「県内医療的ケア児家族会ネットワーク（仮称）」によって、4団体とつながった、今後支援者への呼びかけも引き続き行うことで発展が期待できる。 また、社会活動への参加支援については、単なるサークル活動ではなく、就労支援を念頭に置いた取り組みにシフトすることも評価ディスカッションの中で出された。 既に、家族会ネットワークでも提案したが、様々な社会資源を調査し、ネットワークを通じて、当事者の立場や意見などを取りまとめることで可能になると考える。

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

相談カフェを補足するピアサポートの仕組みとして、当事者と支援者によるランチ会（ママランチ会）を企画、実施した。これは、当事者に気軽に参加してもらってカフェでランチをしながら、悩みなどをピアカウンセリングの形で解消していく取り組みである。子どもがまだ小さい母親が、大きな子どもを持つ母親に気軽に子育て相談をしたり、同席している看護師などに質問したりすることで、悩み解消につながっている。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

「県内医療的ケア児家族会ネットワーク（仮称）」を立ち上げたことにより、当事者の生の声を聞くことができている。1対1のヒアリングでは聞けない意見が、多数の当事者が同時参加できるオンラインミーティングであるからこそ自由に発言ができていると感じている。ここでも出される意見を活動に反映していく予定である。



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる <input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある <input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている <p>と自己評価する</p>	<p>前述したが、現状での阻害要因の分析を行って事業計画の見直しを行い、最終的なアウトカム達成を目指す予定である。また、その見直しの方向性はある程度見えており、計画の改善を早急に行う予定である。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

相談カフェや各種セミナーのオンライン実施（県内医療的ケア児家族会ネットワーク（仮称）との連携）。ピアサポート（ピアカウンセリング）の仕組みの拡張（ママランチ会など）。就労支援への取り組みの強化（子どもの居場所作りと連動）。それらを実現するための事業計画の早期見直しを実施したい。

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）